

白井市長
横山久稚子殿

2010年10月13日

白井市の北総鉄道への助成金支出

専決処分実施に抗議する

北総線の運賃値下げを実現する会
会長 山下兼



白井市の横山市長は本日(10/13)、北総鉄道への助成金支出を専決処分しました。

9月議会では、議会運営をめぐって流会、廃案になりましたが、半数の議員さんからは、臨時議会の開催要請も出されており、議会が機能しないという状況ではありませんでしたし、市長が意図的に議会での審議をさせなかったといわれても仕方のない状況でした。

この問題は元もと、「5%弱合意」を白井議会が認めるか認めないかをめぐってのことでした。3月議会、6月議会で削除されてしまった「北総鉄道への助成金支出予算」を9月議会の最終日に提出し、議長と謀って流会を狙ったものであることも明らかです。

私たちは、「5%弱合意」は、「成田新高速線開通により大幅な運賃値下げが実現される」という沿線住民の期待を押さえ込むために、京成(北総)と国交省・県が仕組んだものであると確信しています。京成がその内容を「上限運賃認可申請」まで説明もせず、いわば白紙で沿線首長の判を求めたものでした。沿線住民をないがしろにし、沿線首長にたいしても京成は「北総線上を事実上ただ乗りする」という事実を判を押すまで知らせなかったという謀略的な進め方でした。

このような内容の「5%合意」に固執することは、沿線住民の永年にわたる高運賃に苦しむ実態を長引かせることとなります。自治体からの助成金支出は、「今後も自治体が金を出さないと、さらなる値下げには応じない。5年後には元に戻す」という脅しを受け続けることにもなります。

私たちは、このような意味を持つ、「白井市の北総鉄道への助成金支出専決処分」は、到底認めることはできません。強く抗議すると共に、次年度に向けて市民の声を広く聞き、再検討されるよう強く求めるものです。

以上

